

館報

防災について
考えよう



9月号

No. 809

令和5年
(2023年)

やまがた



笑顔大切に

ながせ ももか
長瀬 桃香さん (中大池)

地域に寄り添って色々な人と接する仕事をしたいという思いから、郵便局に入社した長瀬さん。現在は窓口業務で郵便・貯金の取り扱いをしています。入社して約4か月の長瀬さんが付けている“初心者マーク”を見て、声をかけてくれるお客様もいらっしゃるそうです。今の目標をお聞きすると「笑顔を大切に、たくさんのお客様に名前を覚えてもらえることを意識して仕事をしています」と話してくれました。

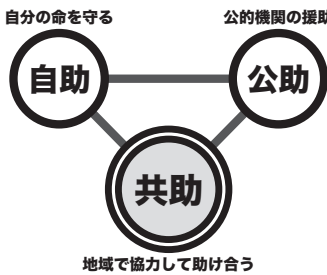
(9月1日 山形郵便局にて)

働き姿

突然の災害を「近所さんと乗り越えよう」 災害時住民支え合いマップ

大地震などの災害が起き、家に留まるのが危険である場合、安全な場所に避難することが何より大切です。自分が安全な場所に逃げる。これは『自助』と呼ばれます。では、足が不自由であったり、高齢者、子どもなど、一人で避難することが困難な場合はどうでしょうか。この場合は家族の助けであったり、一人暮らしであれば隣近所の助け合いが必要になります。このような近所の声掛けや一緒に逃げるなど、身近な人を助ける行動を『共助』と呼びます。

災害発生時、すぐに役場や消防などの公的機関が動いてくれるという考えもあると思いますが、それは無理だと思つて差し支えないでしょうか。なぜなら、職員なども被災している可能性が高いからです。



公的機関の援助『公助』が始まるのは災害が起きて少し経ってからであることを把握しておくことが重要です。

しかし、災害発生から安全確保までは緊急性が高く、『公助』を待っている時間はありません。あらかじめ一緒に避難するご近所さんを決めておいたり、安全が十分に確保できることが前提ではありますが、動ける人が逃げ遅れた人を協力して『共助』する仕組み。そのベースになるのが『災害時住民支え合いマップ』です。

2. 調査票を元に要配慮者をシールなどで色分けしてマップを作成します。



支え合いマップ作成参考

支え合いマップ作成の流れ

1. 連絡班に加入していることが前提です。説明会を開き、世帯ごとに左記内容の『調査票兼同意書』を地区役員または連絡長に提出します。
3. 災害時、村の対策本部が立ち上がる前でも連絡班最小単位で安全確認に活用します。
4. マップは毎年更新していきます。

小坂と中大池ではすでに支え合いマップが完成し、今年度の防災訓練から運用を開始しました。

中大池・下大池は現在作成中で、上竹田・下竹田は来年に作成が予定されています。

支援者(青)…災害時、隣近所の声掛けや安全確認に協力ができる

要配慮者(緑)…歩いて避難が可能だが声掛けなどの支援が必要

要配慮者(黄)…歩いて避難が可能だが付き添いなどの支援が必要

要配慮者(赤)…歩いて避難が困難で支援が必要

それが一番ですが、もしもその時の転ばぬ先の杖として、また防災意識を高めるツールとして有益なものではないでしょうか。ぜひともマップ作成の積極的な協力をお願いします。

※中大池・下大池での作成の様子は次号でお知らせします。

山すけ

念願の夏祭り 山形じゃんずらが4年ぶりに開催された。私にとつて夏の大イベントが帰ってきてとても嬉しかった▼しかし盆踊りはまだ以前のような歌い手や伴奏者などはいなく、音源に合わせたの踊りとなり、少し残念ではあった。けれども参加者は実に楽しそうだったので以前と比べての違和感はなかった▼今回、じゃんずらがどうしたら持続可能で村民が参加しやすく楽しいお祭りになるか？を考え、実行してくださった『じゃんずらぶろじえくと』の皆さんの活躍は素晴らしいかと思つた。中でも子どもたちにも人気だった同じ絵柄の団扇を持っていて人を見つけ、ペアになると景品が貰えるという企画は良く考えたと思う。さすが若い世代の考えだ。このような企画で人と人との新たな交流ができ、輪が広がった気がする▼また、夜店の大行列や、間近で見た花火も迫力があり久しぶりの感動や驚きも感じられた▼来年度もじゃんずらを通して薄れてきた人の繋がりが深まる、そんなイベントになることを願っている。

山形村みどり環境を守る会×山形村赤十字奉仕団×山形村社会福祉協議会
山形村公民館×自然保護集団アクアの会×山形村教育委員会

♪スマイルみどりん♪ 開催のお知らせ

5月にB&G海洋センター前の畑に植えたサツマイモとお花の収穫体験を行います。体験後、収穫したお花を使ってドライフラワーリース作りも行いますので、ぜひ多くの皆様のご参加お待ちしております。

日時 10月21日(土)
午前8時30分～午後12時30分
※雨天時:10月22日(日)に順延


募集人数 40名(先着順)
※お子さんごみの参加、小学生以下の参加、ご家族での参加大歓迎です。

申込方法 右記のQRコードを読み取ってGoogleフォームにてお申し込みください。

申込期限 10月15日(日)

— お問い合わせ —
山形村社会福祉協議会 ☎0263-97-2102

作ったリース作品は、村総合文化祭で展示します!



山形村総合防災訓練

9月3日(日)、村内全域で総合防災訓練が行われました。連絡班ごとに安否確認を行い、各地区の公民館などで放水訓練や炊き出しなどが行われました。上竹田では長野県社会福祉協議会の山崎博之さんを講師に迎え「地域とともに」ボランティアセンターの活躍と災害ボランティアの役割」をテーマに講演会が行われました。また、先日森井自動車(株)から寄贈された児童用消防服が各地区に配布され、保育園児や小学生がそれを着て放水訓練に参加する姿が見られました。

消防服を着て放水した中山水南都さん(下大池)は「消防服はちょっと重かったですが、放水はドキドキしたけど楽しかったです。消防の人はカッコいいなと思いました」と話していました。



山形村消防団

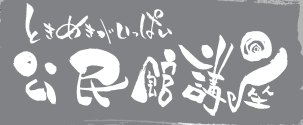
秋季総合訓練

9月3日(日)、山形村消防団秋季総合訓練が行われました。今回は模擬火災訓練が行われ、なろう原公園で火災が発生したと想定し、各分団の詰所から火災現場まで向かい交通整理や火点までのホースの連結、可搬ポンプが傾斜の性能を発揮できるののかなどを実践形式で確認しました。またホースを何本も繋ぐ場合の投げ方や急斜面での対応などについても情報共有し、消防団が団結して迅速な消火活動にあたるように確認されました。



ホース接続確認!

放水はじめ!!



夏まんきつ講座



小学校の夏休みも残すとこ
ろ2日となった8月22日(火)、
入道雲が映える快晴のもと、
ふれあいドーム奥のBBQハ
ウスで夏まんきつ講座が開か
れ、山形小学校4・5年生の
児童4名が参加して流しそ
うめんといき割りを楽しみま
した。

流しそうめんの装置は、公
える竹は、村民の方から提供
いただき、8月18
日(金)おやじ塾の皆
さんが切り出して
枝払いされた後
3m丈に切られ2
本の竿とされまし
た。講座当日お
やじ塾の皆さんに
よって縦に割られ、
参加の小学生が節



民館講座のおやじ塾全面協力
のもと組み立てられました。
材料となる切口直径10cmを超



供を受け
たスイカに
舌鼓を打
ち、夏を満
喫していま
した。

を除き、そうめんを流す樋と
しました。その後、講座参加
者はトレーニングセンター調
理室で、そうめん・薬味の調
理、おやじ塾の皆さんは装置
作りです。

樋の長さ12mの構想でした
が、流水を運ぶビニールホー
ズ丈が短いことから、樋の丈
を半減させ、直角に曲げて組
むことにしました。直交箇所
のジョイント部から漏れる水
をなくす工作に取り組み姿を
見て、筆者の少年時代に三間
沢川で知恵を絞る近所のお兄
ちゃんたちを想い浮かべまし
た。

ギリギリと焼けつくような
暑さのなか、水に流れるミニ
トマト、そうめん、続いてこ
ちらも村民
の方から提
供を受け
たスイカに
舌鼓を打
ち、夏を満
喫していま
した。



小さな種に悪戦苦闘

心地よい秋風の中、作業スタート



分ほどで完
了しました。
収穫は大き
さを見なが
らですが11
月の中旬、
下旬を予定
しており、
今から楽し
みです。

8月29日(火)、公民館関係者
会場にて大根の種まきを行
いました。快晴で少し風があり
気持ちよく作業できました。
昨年と同じく黒マルチを張つ
た2畝に『小太りくん』という
品種の種をまきました。この
品種は耐暑性があり、酷暑と
言われる今年にはぴったりで
す。今回は8名が参加され作
業時間1時間を予定していま
したが、皆様の意欲が高く30

活き生き塾 活動記録

小学生の参加者に話を聞く
と、小学校の『わくわくクラ
ブ』での活動がきっかけとな
り参加してくれたようです。
参加者の皆さんのプレイする
姿は解放感にあふれ、笑顔が
印象に残りました。

ルール説明、1人1回の
試投、2グループに分かれて
ゲーム形式での練習、最後に
2グループの対抗戦と4部構
成で楽しみました。

フィンランド、カレリア地
方の伝統的なKytkaという
ゲームを元に開発されたモ
ルック体験講座が8月5日
(土)・26日(土)・9月9日(土)の全
3回、ふれあいドームで開催
されました。筆者が訪れた初
回の参加者は、2グループ8
名(小学生4名、大人男性3
名、女性1名)。



モルック体験講座

夏はチャレンジ講座でLet'sアクティビティ!!

プールでSUP体験

8月1日(火)、山形村B&G海洋センターでプールSUP体験会が行われました。SUPとはスタンドアップパドルボードの略称で、サーフボードよりも大きなボードの上立ち、パドルを漕いで進む体験です。全6回開催される講座の初回となった今回の参加者は小学校4年生と6年生の児童で、SUPはこの日が初めてのことでした。



た。進む以外にもボードから落ちた時の戻り方や、複数人でひとつのボードに乗ってみるなど時間いっぱいSUP体験を楽しんでいました。体験を終えた子どもたちは、まだまだやってみたいと熱意をみせていました。

SUP体験in生坂村

8月27日(日)、生坂村の生坂ダム湖にて、SUP体験会が行われました。山形村からは小中学生5名が参加しました。生坂村教育委員会との合同イベントで、生坂小学校からは2名の児童が参加しました。晴天の下、7人の子どもたちはすぐに打ち解けて、仲良くダム湖でSUPを楽しみました。



人口1700人あまりの生坂村は、小学校の全校児童が63名です。山形村の4年生とほぼ同じくらいだということに、子どもたちはお互いに驚いていました。交流できたのは数時間でしたが、世界が広がるような経験も少しできたのではないのでしょうか。



NHKが

取材にやってきた

モルックがNHKのイブニング信州(9月1日(金)放送)で取り上げられました。

スポーツキャスターでアナウンサーの瀧埜ひとみさんは、山形村スポーツ推進委員とチームを組んでゲームに初挑戦。村の取り組みと共にモルックの魅力を伝えました。



取材を受ける
スポーツ推進委員会の皆さん

瀧埜さんモルックに挑戦



祝還暦

令和5年8月14日

今月の声

還暦花火と かつての日常に近づいた喜び



還暦を祝う会 幹事代表

土屋敏彦(下竹田)

昭和37年の寅と38年の卯生まれの私たちは、昭和52年度（1977年度）に鉢盛中学を卒業しました。同時にそれまでの幼馴染たちとの日常からも卒業し、それぞれの人生設計に沿って一歩を踏みだしてから丸45年が過ぎました。

年齢を重ねてくると、1日、1年があつという間に過ぎ去ってしまいます。特に、ここ3年余り続いたコロナによる自粛生活で、飲んだり旅行に出かけたりしていた今までの日常がなくなり、社会と分断されたような時間を悶々と過ごしている内に、還暦を迎えてしまいました。

日々の生活の中でときめく瞬間の数により、時間の経過の速さが違うということに子どもから教えてもらいました。子どもの頃の1年間は、下校途中にお宮で缶蹴りなどして大騒ぎしたり、蓮華畑で白いトレパンが緑色に染まるまで寝転んだりじゃれ合ってみたり、夏休みにいやいやプールに隊列組んで通ったり、正月早々から校長

先生の有難いお話を聞きに登校していたりと、とても長く充実していた気がします。

社会人になってしまふとかつての友と会うことはほとんどなくなり、勤務する職場の付き合いや家族サービスが中心となつてしまい、幼馴染のことも故郷（山形村）のことも二の次三の次になっていました。

今年、久々にじゃんずら祭りが復活し、以前の日常に戻りつつあります。還暦花火と久しぶりの同窓会の話があり、久々に行き会った幼馴染たち、かつての面影はあつてもその変化に「ときめき」とは違う喜び？驚き？を感じつつ、夜空に浮かぶ花火を目にしながら、今こうしてみんなと生きていることの喜びを実感しました。

人生の第2ステージに入り少しは持てると思われる私的な時間を、今までお世話になりました先生方、職場の方々、地域の方々への感謝の気持ちを含めて、何らかの地域貢献に振り向けていきたいと思っております。

第39回夏祭り山形じゃんずら後記

第39回夏祭り山形じゃんずらは盛況のうちに終わりました。今回、それを支えた準備と翌日のことを書きたいと思えます。準備は2つ、本館役員と『じゃんぶろ』についてです。今年は本館役員人数を以前の半数で臨みましたが、ステージ設置や歩行者通路設置、設置物の片付けなどを時間で区切ることでスムーズに終わり、例年より負担は大幅軽減されたのが印象的です。

続いては、『じゃんずらぶろ』と（略してじゃんぶろ）の活動紹介です。『じゃんぶろ』とは若者で構成され、じゃんずらの各種企画を練りました。6月10日(日)に行われた第1回会議から、計5回の話し合いを重ねて当日を迎えました。村ゆかりのアーティストによるバンド演奏、日頃言えない思いを舞台上で叫ぶ『村民の主張』、保育園・小学校へのオリジナル団扇の配布と、それを使ったペア探しゲームを企画しました。そのお陰でプレイメントから盛り上がりつつありました。ぜひ来年度以降にもつながってほしいですね。

最後に、8月15日(火)朝7時

より実行委員会、本館役員がゴミ拾いを行いました。例年では2トントラック2台分のゴミが出ていたそうですが、今年は軽トラ1台弱。マナーの良い祭りにご協力ありがとうございました。



風

おめでた(字・題) (敬称略)

水谷 瑠希斗 康 孝 中大池

米山 美月 陽 二 下竹田

平沢 風紗 幸 拓也 中大池

おくやみ

住吉 隆子 76歳・小坂

沖津 憲道 79歳・上竹田

百瀬 小春 99歳・下竹田

上條 麻亜子 39歳・中大池

車系 ②①

老朽化のため令和2年度に閉館された『ふるさと伝承館』。山形村の遺跡で発見された土器や、村内で使われていた民具、衣装など、山形村の歴史を物語るたくさんの資料が展示・収蔵されていましたが、現在は全て仮の収蔵庫に移動し保管されています。これらの貴重な資料をもっと多くの方に知ってもらうために、鉢盛中学校3学年の総合的な学習の時間で、山形村の地域お助け講座に参加してくれた20名が取り組んだ県宝土器のガチャガチャが、ついに完成しました。今回は製作の様子をお届けします。

まずはフィギュアのモチーフとなる土器のことを知るために、本物の土器を観察しながら、講師の方の説明をお聞きしました。縄文時代の生活を思い描きながら、どんな使い方をしたのか、どういう生活をしてきたのかを考えながら学習しました。

土器の学習を通して完成したフライヤー（説明書）はずべて中学生のオリジナルで作り、土器フィギュアと共に1枚ずつ入っています。講師の方から聞いた特徴や用途などの文言を入れ、デザインもすべて生徒の皆さんが考えてくれました。

また、フライヤーにはこだわりのバナナペーパーを使用しています。バナナペーパーとは、バナナの茎の繊維に、古紙またはパルプを加えて作られた、環境に配慮された紙です。和紙のような質感で、色は少し黄味がかっています。ガチャガチャを回した際にはフライヤーにも注目してみてください。

授業の中で、今回フィギュアを製作してくれた業者の方の話も聞きました。身近な製造業はどんな仕事なのか、どのように製作をしたのかをお聞きしました。今回のフィギュア製作には、3Dプリンターが使われています。製造過程を聞きながら、ものづくりの楽しさを学びました。

完成したフィギュアとフライヤーは、参加してくれた中学生全員で、ひとつひとつカプセルに詰めました。「たくさんの人が回してくれるといいね」と言いながら、みんなの想いも詰め込みました。ガチャガチャはトレーニングセンターといちいの里に設置しました。施設を訪れた際はぜひ回してみてください！



みんなの人権 ⑩②

“復活・夏祭り山形じゃんずら”の賑わいと“優の風景”

～ウェルビーイングな村づくりと山形村第6次総合計画・SDGsの理念～

ここに久しぶりの再開を喜び合う光景が広がっていました。今年度からスタートした「山形村第6次総合計画（2023～2032）」では、まさにこのような「優の光景」が漂う「ウェルビーイングな村づくり」を目指して、「まちづくり分野」のビジョンに「多様性を認め合い『住みやすさ』をさらに高めるやまがた」を掲げています。これは、国連が世界的規模で進めるSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた取組みとも呼応しています。それはまた、本村の特性や課題を踏まえた、活気と安心の漂う「人権尊重の村づくり」を推進することと同義でもあります。◇SDGsの取組みは、2015年（平成27年）9月に国連で採択された「我々の世界を変革する…持続可能な開発のための2030アジェンダ」のなかで提唱されたもので、現在、17目標・169のターゲットの達成に向けて、世界でも国内でも様々な取組みが進められています。その内容は、貧困・飢餓の根絶、健康と福祉の増進、教育や子どもの人権、ジェンダー平等など、どれも「人が生きること」と関連した「人権尊重」の考え方がベースになっています。しかしながら、現状は新型コロナウイルス感染者に対する誹謗中傷や性的指向・性同一性障害に関わる課題、更にはインターネット上での人権侵害など匿名性の高い新たな人権問題も生じてきています。男女差別、子ども、高齢者、障がい者に対する差別や偏見も未だに根強く存在しています。◇我が村でも、家族や住民同士の意思疎通の希薄化が危惧され、何気ない言葉による人権侵害、各種ハラスメント、外国人に対する偏見など、気になる人権上の課題が幾つか挙げられています。特に昨今、国内外で相次ぐ凄惨な事件や出来事を目の当たりにする度に、「ウェルビーイングな人権尊重の村づくり」には、先程の「夏祭り山形じゃんずら」のように、まずはコロナ禍の中で減ってしまった「住民が集い語り合う場と機会」を早急に呼び戻し、お互いの気遣いや支え合いの感情（人権感覚）を呼び覚ます取組みが求められているように思います。

（令和5年9月 M. H. 記）



◇令和5年度も明けて半年。4年ぶりに復活した「第39回夏祭り山形じゃんずら」も若者パワーカーを中心に大賑わい。そこかしこに久しぶりの再開を喜び合う光景が広がっていました。今年度からスタートした「山形村第6次総合計画（2023～2032）」では、まさにこのような「優の光景」が漂う「ウェルビーイングな村づくり」を目指して、「まちづくり分野」のビジョンに「多様性を認め合い『住みやすさ』をさらに高めるやまがた」を掲げています。これは、国連が世界的規模で進めるSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた取組みとも呼応しています。それはまた、本村の特性や課題を踏まえた、活気と安心の漂う「人権尊重の村づくり」を推進することと同義でもあります。◇SDGsの取組みは、2015年（平成27年）9月に国連で採択された「我々の世界を変革する…持続可能な開発のための2030アジェンダ」のなかで提唱されたもので、現在、17目標・169のターゲットの達成に向けて、世界でも国内でも様々な取組みが進められています。その内容は、貧困・飢餓の根絶、健康と福祉の増進、教育や子どもの人権、ジェンダー平等など、どれも「人が生きること」と関連した「人権尊重」の考え方がベースになっています。しかしながら、現状は新型コロナウイルス感染者に対する誹謗中傷や性的指向・性同一性障害に関わる課題、更にはインターネット上での人権侵害など匿名性の高い新たな人権問題も生じてきています。男女差別、子ども、高齢者、障がい者に対する差別や偏見も未だに根強く存在しています。◇我が村でも、家族や住民同士の意思疎通の希薄化が危惧され、何気ない言葉による人権侵害、各種ハラスメント、外国人に対する偏見など、気になる人権上の課題が幾つか挙げられています。特に昨今、国内外で相次ぐ凄惨な事件や出来事を目の当たりにする度に、「ウェルビーイングな人権尊重の村づくり」には、先程の「夏祭り山形じゃんずら」のように、まずはコロナ禍の中で減ってしまった「住民が集い語り合う場と機会」を早急に呼び戻し、お互いの気遣いや支え合いの感情（人権感覚）を呼び覚ます取組みが求められているように思います。

来年、山形村は開村150周年を迎えます。
 知っているようで意外と知らない私たちの山形村を、より深く、詳しく知っていただくために、マニアックなクイズを企画しました。まずは、頭の体操代わりに、まちがい探しをお楽しみください。
 この企画は、2～3か月に1回行っていきます。これからもよろしくお願ひします。



Vol. 2

8つのちがい

下の左右のイラストの違い、見つけられるかな？



山形村開村150周年記念 超マニアック三択クイズ!

問題1

開村150周年記念ロゴマークはどれでしょう？



問題2

山形小学校が、山形学校として現在の位置に落成されたのは何年でしょう？

- ① 明治33年
- ② 明治40年
- ③ 明治42年

正解は、次号で!

館報やまがたへの
 情報提供募集中
 身近な情報・感想を
 お寄せください!

電話

0263-98-3155
 (山形村公民館)

フォーム

下記のQRコードをスマート
 フォンなどで読み取ってくだ
 さい。



山形村公民館報『館報やまがた』No.809 9月号 令和5年9月発行
 編集と発行／長野県東筑摩郡山形村公民館 印刷／カシヨ株式会社

館報やまがたのバックナンバーは村のホームページ(こちらのQRコードから)でも見ることができます→

